

地域を
元気にする



芥見東 シニアクラブ便り

令和6年1月6日 発行責任者 船坂民平

新しく暦が変わった令和6年1月1日、御屠蘇気分で夕食という時間、5時06分「地震発生、地震発生」とどのテレビ局もが一斉に報じ、それ以後の時間はすべて能登地震の画面に変わった。気象庁は、「令和6年能登半島地震」と命名。震度7,6度は平成30年の北海道地震以来、大津波警報は、平成23年の東日本大震災以来という。地震を真面に受けた珠洲市は、家屋の9割が全壊、ほぼ壊滅状態という2日の新聞報道。

元旦暗転、「悪夢としか」。国内外で厳しい状況が続いた昨年に更に追い打ちをかけた今回の能登地震。これから更に詳しい惨状が伝えられるだろうが、いずれにしても、この厳冬に被災者のこれからの生活が気にかかる。

シニアクラブ会員の皆さま、明けましておめでとうございます。皆様、健やかに初春をお迎えでしょうか。私たちもお陰で穏やかな新年を迎えることができました。皆様にとっても、この新しい年が健康で無事な1年になりますよう、心からお祈りするとともに、今年もご支援、ご協力のほど宜しくお願いします。

今年の年賀状

<p>明けましておめでとうございます 昨年の流行語大賞は「アレ」でした これは それにちなんだ老夫婦の会話です 「ばあさまや 阪神の監督が言った『アレ』ってなんだね」 「さあね 私に聞いたって分からないよ きっと監督もわからないから 『アレ』と 言ったと違うかね」 「そうかもね きっとそうだよ はっきりしていれば『コレ』と言うよね」 「じいさまや 今テレビに映っている人 名前は何とかいったよね」 「あの人か アレだよ アレ アレ」 「そうね あの人だよね アレね」 名前は最後まで言えなかったものの 老夫婦の間では納得できました こんなたわいもない会話ができるのも そう長くありません これからも うーんと 楽しまなきゃ 令和6年 元旦 船坂 民平・弘子</p>	<p>私の年賀状です。 年賀状で思うことは、相手に読んでもらえる内容にすること。単なる挨拶だけではなく、生活の一端が滲んだものを添えて届けるということです。 今回は阪神監督の「アレ」が素材です。 トコトン突き詰めず、たわいもないままの老夫婦がいいですね。日々、ゆったりと暮らしたいものです。</p>
<p>謹賀新年 貴兄にはますますご盛栄のことと存じます。当方はまもなく満90歳になります。 先だって教え子から、祝卒寿という大書の色紙が贈られて来ました。それらを見入ると、なんだか嬉しくなります。 妻は相変わらず介護施設暮らしですが、昨年4月からコロナ期解除で、週1回1時間だけ面談ができるようになりました。その折は、好みの物を持って出かけます。 近年は人生100年とかで、また10年日記を買いました。また大枚を叩いて補聴器を替えました。また何処でずっとかけてもいいように次男宅に合鍵を預けました。ポケットには連絡先が分かるメモも入れています。今年も宜しく。 M, I</p>	<p>友人からの賀状。美術科出身。書く絵は具象的、近所の自然が対象。 健康な夫婦。二人ともという仲間は少なくなった世代、身につまされる。 10年日記、よく買ったものだ。私は3年日記でもためらったのに。欲張り。 近況に共感。ありのままがいいね。</p>